

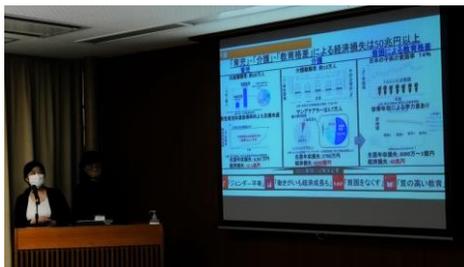
第5期中部WIN 第4回開催レポート

開催日時：令和4年9月2日（金）13:30～17:30

●グループワーク中間発表

各グループが、ビジネスプラン作成の進捗状況を報告した。

Aグループ（教育・人材育成）



現状分析：育児離職・介護離職により世帯年収が下がることで、学力差を生む。学力低下は収入低下につながり、貧困は世代で連鎖する。
目標と方向性：「貧困による教育格差」を無くし、次世代への負の連鎖を断ち切る。
具体プラン：子どもとその親への教育支援・学習意欲の醸成が重要。企業から資金を集め、イベントを行い、学び舎を運営し、子どもに学びの機会と居場所を与える。

Bグループ（イノベーション・デジタル・DX）



現状分析：日本人は労働時間が長い。GDPは高いが、人手不足感は常にある。仕事に働きがいを感じていない労働者が多い。
目標と方向性：仕事に働きがいを感じる時間を増やす。
具体プラン：労働状況を良くするためのコンサルティング会社を設立する。DX推進をサポートし、生産性を向上し労働者が働きがいを感じる時間を増やす。

Cグループ（地域活性化）



現状分析：地域観光が一体化しておらず不便。
目標と方向性：地域観光とリサイクルを組みあわせ、楽しみながらリサイクルに参加してもらう。
具体プラン：観光と遊び場のパッケージプランの紹介アプリを運営する。具体的なサービス内容は検討中。

Dグループ（環境・エネルギー）



現状分析：大企業ではカーボンニュートラル（CN）活動を推進しているが、中小企業ではノウハウ・人員不足・コスト増がネックとなっているため、大企業と比べると取組は遅れている。
目標と方向性：中小企業のCNをサポートし、サプライチェーン全体でのCN化を推進する。
具体プラン：中部地区でCNに取り組む中小企業に向け、事業規模や取組段階に応じた情報交換の仕組みを作り、即効性のあるコスト低減策にたどり着けるようサポートする。

Eグループ（ダイバーシティ・働き方改革）



現状分析：生産年齢人口は2020-2045で45%減少する。40代を超えたミドル・シニア世代は出世に対する意識が低下するがスキルアップへの向上心は高くなる。また労働者全般では自由に使える時間が少なくなる「時間貧困」が課題となっている。
目標と方向性：ミドル世代の活躍を目指す。時間貧困問題を解決するサービスを創出する。
具体プラン：検討中。

●アドバイザーからのコメント

●総括コメント 田中 耕太郎／中部経済産業局長

あらかじめSDGsという大きな課題が与えられているため難しい面もあるが、もう少し身近な問題に引き寄せて提案するとより実感を持って取り組めるのではないかと。

また、収益モデルについては各グループ苦戦しているが、既存のサービスをよく分析することが大切。様々なサービスを問題意識と組み合わせることで新しいアイデアが出ると思う。

発表に際しては、グループ内で共通認識があっても、初めて聞く人には分からない。そういったことを意識するようにしてほしい。12月の成果発表を楽しみにしている。



●講評＆講義 伊藤慎悟 氏／コンサルティング・シスト代表（中小企業診断士）



全体的に資料の完成度は素晴らしい。より良いものにするためには「ターゲットが曖昧なので、具体的に想定する」、「少し急ぎ過ぎている感があるので、もう少しじっくり取り組む」、「解決案に個性が欠けている。次世代の女性リーダーである皆さん独自の経験や視点を盛り込んでほしい」というアドバイスが挙げられる。

「ビジネスモデルキャンパス」を使うことによって、ビジネスの全体像を記述することができる。とくに創業時や新事業立ち上げの際に使うことができ、どこを考えていてどこを考えていないのかがチェックできる。

うまくいくグループは全員参加ができています。一体感を持つと成功しやすい。

●卒業生による講話＆座談会

開発 恭代 氏（第3期生） 参納 ひろみ 氏（第4期生） 室崎 早紀子 氏（第2期生）

／ハリタ金属株式会社

中部WIN卒業生による講話が行われた。失敗を恐れずに自分の意見をどんどん発信すること、相互信頼・相互成長を重視し、忌憚のない意見を自由に発信しまとめることなどについて講話がされた。また、後半は座談会形式で、女性リーダーが社内で遭遇する問題などについての経験が話された。



●意見交換

講話を行った卒業生ごとに3つの班に分かれ、それぞれ意見交換、全体発表を行った。

